

2010年5月号

ほくし

発行所

社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号

プールパール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046

平成二十一年度
第二回総会(通常)

H22.3.26

HP



三月二十六日(金)、午後七時三〇分より北区民センターに於いて社団法人大阪北区歯科医師会平成二十一年度第二回総会(通常)が開催された。

多田議長、矢追副議長が着席し定刻に多田議長より開会宣言が行われた。佐々木常務理事より点呼の結果発表があり、現会員数一八八名、定足数九五名、出席者三四名、書面表決七三名、委任状提出二十三名、合計一三〇名で本総会の成立が報告された。

野口副会長による開会のことばの後、議事録署名人に七班横野明弘先生、一班守下雅美先生が指名された。高麗会長があいさつに立ち、新執行部も発足して一

年の歳月が過ぎようとしているが会員の先生方の協力により本日に至るまで大過なく過ごせた事に對し感謝を述べた。

報告事項で会務中間報告が大塚専務よりあり、次に物故会員および物故家族への弔慰黙祷が行われた。

その後、森川理事より福祉共済制度会務中間報告、三輪常務理事より会計中間報告、森川理事より福祉共済制度会計中間報告がなされた。

続いて委員会報告として、福祉共済制度検討委員会橋本収委員長と規程検討委員会横野明弘委員長から報告が行われた。

次に府歯代議員会報告が石崎代議員より行われた。議事に移り第一号議案社

団法人大阪北区歯科医師会福祉共済制度規程の一部改正についての提案理由の説明が森川理事よりなされ賛成多数により可決された。

引き続き、第二号議案社団法人大阪北区歯科医師会協力金および会費等に関する規程の一部改正についての提案理由の説明が大塚専務理事よりなされ、出席者全員の挙手により可決された。続いて第三号議案社団法人大阪北区歯科医師会法人設立三〇周年記念事業負担金に関する件について大塚専務理事より提案理由の説明がなされ、賛成多数により可決された。

次に、第四号議案平成二十二年事業計画が大塚専務理事より、第五号議案平成二十二年一般会計収支予算が三輪常務理事より一括上程され満場一致で可決され、第六号議案平成二十二年特別会計収支予算が三輪常務理事、森川理事より上程されこれも全員の挙手により可決された。

協議に移り、守下雅美先生から石田純子事務局員定年退職に対する永年勤続表彰の提案があり、満場一致で可決された。

最後に木下副会長より開会のことば、多田議長の開会宣言により閉会となった。

税務申告説明会開催

H22.1.27

HP

一月二十七日(水)、午後六時より「大阪東急イン」において税務説明会が開催されました。

大西理事の司会のもと、高麗会長の挨拶で始まり、北税務署の森川宗昭署長の挨拶の後、個人課税米田貴志第一統括官と資産課税木村忠茂統括官によりe-TAX、平成二十一年度税制改正について詳しく説明が

ありました。

e-TAXについては、国税庁の重要課題として取り組んでおられ、先生方に利用をお願いされてました。

税制についての情報は、財務省のホームページ <http://www.mof.go.jp> で提供しているのので、ご利用して下さいとのことでした。

参加者は二〇名でした。(常務理事・中川晴彦記)

福祉共済制度検討委員会

H22.3.16

三月十六日(火)、大阪北区歯科医師会事務所において、第三回福祉共済制度検討委員会が開催された。本委員会は平成二十一年十一月二十四日の第一回から計三回開催され、今回を最終回とし、橋本収委員長より高麗会長へ答申書が手渡された。

その概要は、以下の通りである。一・死亡共済金を見直す。二・退会共済金の承認に際する透明性を確保する。三・各種祝金、見舞金については一般会計にすでに組み込まれている制度を活用し、本制度では廃止とする。四・入会時共済協力金を見直す。

尚、本委員会は橋本収委員長、水沼和夫、野口秀夫、西副委員長、東郷達夫、奥野夏樹、大塚俊裕、佐々木裕、森川裕各委員で構成された。(副会長・野口秀夫記)



— 学術講演会 —

「理想と現実の狭間でー歯科医師として何を考えるべきか」

H22.2.24

✓HP

如月とはいくものの、春の便りが聞こえてきそうなほど暖かかった二月二十四日（水）、北区民センターにおいて、学術講演会会員発表が行われた。最初に、昨年より併催されている歯科関連業者によるプレゼンテーションが行われた。今回はヘラウスとiCAT、二社にご協力いただいた。ヘラウス社からは、CAD/CAM装置を用いた臨床に活用できるシリコンバイト材、および切削効率を高めた形成用ダイヤモンド・バーが紹介された。また、iCATからは、CT撮影装置の基礎とその評価方法について解説があった。両社とも近年ひろく普及し始めた装置に関連する商品で、参加された先生方の興味を大いに引く内容であった。

引き続き、当会五班の賀本方子先生による「理想と現実の狭間でー歯科医師として何を考えるべきなのか」と題した会員発表が行われた。まず、重度歯周炎および歯の欠損を有する患者さんに対して、インプラントを併用した歯周補綴を行い術後約十三年間におよぶ長期症例を二例呈示さ



れた。どちらの症例も、術前にあった問題を解決するには、非常に高度な診断と治療技術が必要と思われる症例であったが、患者さん自身も十分に満足される結果に導かれただけでなく、その後のメインテナンスにまで配慮がなされた治療に参加者も驚嘆していた。また、患者さんの希望と術者の希望との間にギャップのある症例に対する対応として、「治療を断る」「妥協」「インターディシプリナリー・アプローチ」などの方法を挙げられ、それぞれの具体的内容につき症例を通して解説された。最後に、より患者さんが満足のいく治療ゴールを獲得する上で、多くの治療案を提示するこ

みおつくしの会

H22.3.27

✓HP

三月二十七日（土）、肌寒い晴天の春日和となりました。ヒルトン大阪三階「王朝」にて、十一名の先生方に出席をいただき、「みおつくしの会」を開催いたしました。高麗会長の開会の挨拶、安田良三先生の乾杯のご発声にはじまり、各先生方の興味深いお話をお聞きしながら、華やかな中華料理を頂くという和やかな会となりました。今年傘寿をお迎えになられる三浦康宏先生へは福祉共済制度より「長寿祝」の記念品を高麗会長により贈呈し、また、井上敏治先生、井上慶子先生、保田和雄先生には、郵送にて

と、治療における客観的アドバイスを得ること、インターディシプリナリー・アプローチの確立、の三点を挙げられ、講演を終えられた。初期の問題であれば、その対応もある程度限られたものとなるが、中等度以上の問題に対しては、治療計画を立案する上でも迷うことも多くあると思う。今回、そのような疑問を解くヒントを与えていただける講演であったのではないかと思う。（学術部員・浦野智記）



新入会員

11班・河端 貴志

（大歯大・平成9年卒）



（診）河端デンタルクリニック

梅田一三ー一大阪駅前第ビル二六六

電 六一四七二四〇〇
F 六一四七二四〇一

14班・松本 匡史

（朝日大・平成10年卒）



（診）松本歯科クリニック

芝田一ー二六
松本ビル四F電 六四八六一一一〇
F 六四八六一二二二

編集後記

ようやく過ぎしやすくなつてまいりました。今回の診療報酬改定ではプラス改定となり歯科界も少し春に近づいてきたようです。